



日野市環境情報センター(愛称かわせみ館)は環境に関する情報を収集・分析・発信するために、2005年7月に市民・事業者・学校・行政の協働で開設されました。

2015日野市環境情報センター年報が発行されました

2015日野市環境情報センター年報VOL.9が発行されました。年報は環境情報センターの活動の内容と成果を公開し、センターの活動を市民の皆様幅広く知っていただくことを目指して2005年のセンター発足時から発行しています。

年報VOL.9では、第1章で2015年度(2015年4月～2016年3月)のセンターの活動の全体を要約して報告しています。第2章ではセンター主催で開催した「みんなの環境セミナー」や「写真展」などの内容や参加者の感想などを紹介しました。第3章では2015年9月に開催された“水と緑の日野・市民ネットワーク”主催のシンポジウム「黒川清流公園の自然」の講演内容や2015年度に実施した環境に関わる調査の結果報告などを掲載しています。

年報VOL.9第1章、第2章で紹介したセンターの主な活動をみると、市民向けの「みんなの環境セミナー」は“フィールドに出よう”を合言葉に市民環境大学や雑木林ボランティア講座の公開講座を含め8回開催、132名の市民が参加されました。「写真展」は2015年度からスタートした「日野市生物多様性地域戦略」策定事業を受け、「日野の生き物写真展」を4回開催しました。また、市民団体“ひのどんぐりクラブ”との協働で小・中学校向けに実施している環境学習会では、2015年度は92回の出張授業を行い約8,700人の生徒の参加がありました。そのほか、環境関連市民団体や大学との連携・支援活動も紹介しています。第3章では、シンポジウム「黒川清流公園の自然」のほかに、中央大学経済学部との協働事業として実施した「日野市の自然環境に関する中央大学生の意識調査」の結果報告や、環境基本計画推進会議CO2グループと年2回(6月、12月)協働で行なっている市内の全小学校の児童を対象とした省エネ行動調査「エコキング」アンケートの結果も掲載しています。2015年度の「エコキング」アンケートには約11,800人の児童が参加しました。

2015年は日野市環境情報センターが発足(2005年7月)してから10年目という節目の年でした。2015年7月にはセンターにゆかりのある方々や市民の皆様から寄稿していただき「日野市環境情報センターニュース 開設10周年記念特別号」を発行しました。この記念号も掲載しています。ご覧ください。

前号でもお知らせしましたが、環境情報センターは2017年4月に完成する(仮称)東豊田複合施設内に移転します。この複合施設の計画概要も紹介しました。環境保全活動や環境学習を展開する拠点としてご期待ください。

2015環境情報センター年報VOL.9についてのお問い合わせは環境情報センターまでお願いいたします。

第1回「浅川アユまつり」開催！予想を上回る約6000人が来場、大盛況でした

8月14日(日)、浅川ふれあい橋周辺を会場にして第1回「浅川アユまつり」が開催されました。当初の目標である3,000人の予想を大きく上回る約6,000人の方が来場し、大盛況となりました。

日野市には市域の北側を多摩川、中央には浅川が流れ、これらの川を水源とする用水路が総延長116kmを越えて伸び、古くから人々の暮らしに「水」が大きくかかわってきました。

「浅川アユまつり」は、参加した皆さんが日野市の豊かな水辺に親しむことで、水辺の環境や生物多様性の恵みについて考え、水辺の魅力を実感していただくことを目的として実施されました。

当日は浅川を舞台に、多摩川漁業協同組合日野支部の協力のもと「ピストン釣り大会」や「魚のつかみ捕りゲーム」「伝統漁法体験」「アユウナギの伝統料理試食会」など楽しくおいしい体験型イベントが展開されました。また、水辺の楽校主催の「浅川を飛べ！ターザンロープ」や生きものコーナーでの「昆虫大捜査・昆虫クイズ大会・大木島公園探検ツアー」、特設ステージでの「エコアラ・エココマのダンスステージ」など親子で楽しむフリーアトラクションも盛りだくさんで大人気でした。また、市が進めている生物多様性地域戦略に関するアンケートも実施、多くの方に回答していただきました。

参加した皆さんからは「今後釣りなどの川遊びをしてみたい」「アユが美味しかったのでまた川魚を食べたい」「日野の水辺の豊かさを知ることができた」などの声が寄せられ、この「アユまつり」が水辺の環境や川魚に親しむきっかけとなっていることがうかがえました。

日野の豊かな水辺環境を存分に活用し、PRすることができるこの「アユまつり」は、「水の郷」と呼ぶにふさわしい日野市ならではのイベントであり、今後も実施していきたいと考えています。



多くの人で賑わう会場



さあ！魚をつかまえよう！

主催：日野市
協力：多摩川漁業協同組合日野支部・浅川潤徳水辺の楽校推進協議会・日野市国際交流協会
後援：日野市商工会・日野市観光協会

水と緑の日野・市民ネットワーク主催シンポジウム「黒川清流公園の自然」が開催されました

9月24日（土）13：00～16：30 水と緑の日野・市民ネットワーク主催のシンポジウム「黒川清流公園の自然～シリーズ④水と緑」が開催されました。会場は多摩平の森ふれあい館です。
「黒川清流公園の自然」シリーズは2013年9月に市制施行50周年記念シンポジウムとして第1回目が開催され、その後2014年5月に「シリーズ②植物」、2015年9月に「シリーズ③生き物たち」と続き、今回が「黒川清流公園自然」シリーズの最後の会になります。今回のシンポジウムでは以下のテーマで講演が行われました。

日野の湧水を考える：講師 小倉紀雄、秋田一美（日野市環境情報センター）

～「25年間（1989年～2014年）の調査結果から見てきたこと」と題して、湧水量調査の歴史や2014年度の定期調査や現況調査の解析結果について説明がありました。日野市の湧水の現状や湧水の保全のために何をなすべきか、またこれからの湧水調査の重要性も語られました。

日野の自然と黒川清流公園：講師 中西由美子氏（日野市環境基本計画推進会議みどりグループ）

～日野市の地形の特徴や明治から昭和にかけての農村の風景や暮らしの変化、それに伴う雑木林の変化などについてお話がありました。そんな変化の中で現在も貴重な自然が残されている黒川清流公園について、今の姿、市内でも人気No.1スポットであること、現在の公園の価値などについて解説があり、市内に残された他の自然環境とのネットワークとともに黒川清流公園をどのように残していくか、という問題提起もありました。

全ての生き物の源泉は水にあり：講師 飯島利三氏（水と緑の日野・市民ネットワーク会長）

～生き物が生命維持を続けるために水は不可欠であること、その水はいつ、どこから来たのか、地球の46億年の歴史の中で水によって生命が生まれ育まれてきたこと、水の特異な性質などについてお話がありました。

シンポジウムには約40人の市民の皆さんが参加され、講師の方々のお話を熱心に聞いていました。講演のあと意見交換も行われ、充実した3時間半でした。



日野市の昆虫たち（その6）

日野の自然を守る会 森川正昭

<多摩丘陵と多摩川河川敷、互いに違う環境で生息する昆虫たち>

5. 消えた蝶たちと新たに加わった蝶たち

今回は、今では見られなくなった蝶、新しく棲みついた蝶についてお話をします。

昭和30年代以降の高度経済成長期を境に日野市の自然環境は大きく変わり、多くの種類の蝶たちが姿を消していきましました。しかし、それとは逆に1980年代から問題になってきた地球温暖化などの影響や、国外から持ち込まれ棲みついた蝶、更には山地より分布を広げて来た蝶など、かつては市内で見られなかった蝶が見られようになりました。

○消えた蝶たち

緑豊かであった1960年代頃までは、丘陵地の雑木林や多摩川の河川敷などに、今では見られない多くの種類の蝶がいました。雑木林には国蝶のオオムラサキが樹液に集まり、クロシジミが梢に飛び、ホソバセセリがオオトラノオの花に吸蜜に来ていました。草地にはウラギンヒョウモンやクモガタヒョウモンなどが舞い、多摩川の河川敷や土手の草原にシルビアシジミやミヤマシジミが飛び、土手の周りに残る雑木林にアサマイチモンジ、ツマグロキチョウを見ることができました。しかし、これらの蝶は今、日野市内から姿を消し見られなくなってしまいました。丘陵地の減少とそれに加えて雑木林の放置が原因と言われています。かつては適時の萌芽更新や下草刈りなど、人の手が加えられた自然があり、蝶たちの棲める良好な環境があったからです。

○新たに加わった蝶たち

しかし、その反面、新たに見られる蝶が増えてきました。ナガサキアゲハ、ムラサキツバメ、ツマグロヒョウモン、クロコノマチョウは共に南方系の蝶で、ナガサキアゲハ、ムラサキツバメは四国、九州以南に、ツマグロヒョウモン、クロコノマチョウは静岡県以南に分布していた蝶ですが、温暖化の影響などで、クロコノマチョウは1990年代に、その他は2000年代に入り市内でも見られるようになりました。

ホソオチョウ、アカボシゴマダラなど国外の蝶も見られるようになりました。ホソオチョウは本来、朝鮮半島、中国に分布する蝶ですが、1978年に百草園の近くで国内で初めて記録されました。アカボシゴマダラは国内では奄美大島に分布している蝶で、1995年に埼玉県でも記録されましたが、斑紋などの違いから中国大陸に分布している系統と分かり、その後、分布を広げ日野市では2007年に初めて記録されました。共に、マニアが海外から持ち込み放蝶などにより国内に広がった蝶です。

ウスバシロチョウ、コムラサキは共に山地性の蝶でウスバシロチョウは高尾山、コムラサキは奥多摩で見られる蝶ですが、ウスバシロチョウは1970年代に、コムラサキは2000年代に市内で記録されるようになりました。

以上、この半世紀の間に日野市内で見られる蝶の種類も環境などの変化により、大きく変わってきたのです。

2015年7月発行の第16号から6回に亘り「日野の昆虫たち」について少しだけお話をさせていただきましたが、自然豊かな日野市には、多種多様な昆虫たちがいることを少しでも分かっていたいただければありがたいと思っています。

■平成28年度「エコキング夏」の調査結果がまとまりました

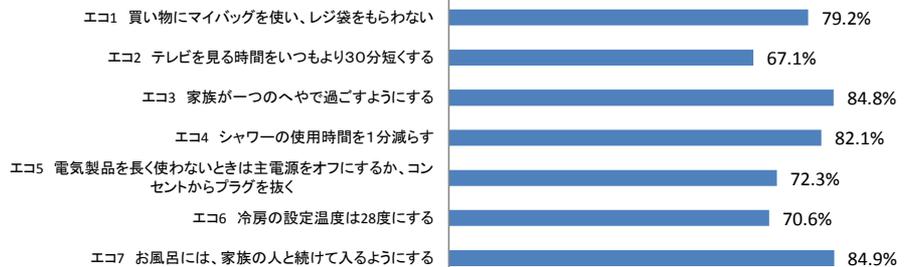
平成28年度「エコキング夏」の調査結果がまとまりました。「エコキング」とは、市内の全小学校にご協力いただき、小学生のいる家庭の夏と冬の“ある1日”のエコ活動を通して、CO₂がどれくらい削減されるかを調査するものです。日野市環境基本計画推進会議CO₂グループ主催で平成18年からスタートし今年で11年目です。

平成28年度夏の調査は6月18日（土）の1日間のエコ活動について聞きました。市内の小中学生7,212人が参加、下記の7つのエコ活動の家庭での実施状況を聞きました。調査の集計結果をみると、全学校計でエコ活動の実施率が最も高かったのは、「エコ7：お風呂には、家族の人と続けて入るようにする」で84.9%、次いで「エコ3：家族が一つのへやで過ごすようにする」が84.8%とほぼ同率で続きます。最も低かったのは「エコ2：テレビを見る時間をいつもより30分短くする」で67.1%でした。この3項目の順位は前回（平成27年度）のエコキング夏と同じ結果でした。

7つのエコ活動の実施者数にそれぞれの活動で削減されるCO₂の量をかけて算出した6月18日の1日間で削減されたCO₂の総量は全小学校計で2,648,999gで、テニスコート約10.6面分※の森林が1年間に吸収するCO₂の量に相当します。もし、6月18日のエコ活動を1年間続けると、テニスコート約3,868面分（これは市役所の前にある日野中央公園22,849㎡の約85個分に当たります）の森林が1年間に吸収するCO₂が削減されることとなります。日々の生活の中での小さなエコ活動の積み重ねがCO₂の削減に大きな効果があり、ひいては地球温暖化の防止にもつながります。

※テニスコート1面（約500㎡）当たりの森林が1年間に吸収するCO₂の量250kgで換算

平成28年「エコキング夏」
7つのエコ活動実施率
—全小学校計—



■CO₂グループ主催 市内小学生の保護者を対象とした「省エネアンケート」結果の報告です

今回の「エコキング夏」のアンケート（6月18日実施）では、同時に保護者の方々を対象とした「省エネに関するアンケート」も初めて実施しました。暮らしの中での省エネ意識や「ふだん着でCO₂をへらそう」活動の認知度や参加状況など6つの質問に答えていただきました。この調査も日野市環境基本計画推進会議CO₂グループの主催です。

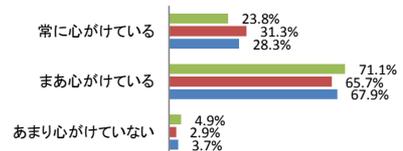
アンケートに答えていただいた保護者の方は2,980人。内訳は30代以下1,198人、40代以上1,782人でした。性別は女性93%、男性7%です。

各質問についての集計結果は以下の通りです。グラフは上から30代以下、40代以上、合計です。

*無回答の方がいるため合計が100%にならないケースがあります。

あなたはふだんの暮らしの中で省エネをどのくらい心がけていますか？

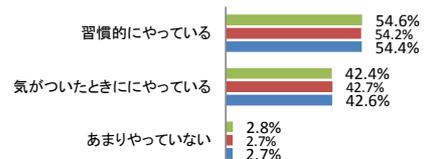
全体では「常に心がけている」28.3%、「まあ心がけている」67.9%、「あまり心がけていない」3.7%でした。年代別では40代以上の心がけ割合が高くなっています。



あなたはお子さんに対して省エネの動機づけをされていますか？

（例えば、「歯磨きするとき、水を出しっ放しにしないように」など）

全体では「習慣的にやっている」54.4%、「気がついたときにやっている」42.6%、「あまりやっていない」2.7%でした。ほとんどの保護者の方はお子さんへの省エネの動機づけを実行していて、年代別でも差がありませんでした。



あなたがふだんの暮らしの中で最も気をつけている省エネはなんですか？（複数回答）

全体では「電気」70.5%、「水」46.2%、「ガス」7.6%、「石油」0.9%でした。年代別ではほぼ全体と同じ結果です。

火力発電の燃料で最もCO₂排出量の割合が多いのは次のうちどれだと思いますか？

全体では「石油」29.7%、「石炭」28.2%、「LNG（液化天然ガス）」4.4%、最も多かったのは「わからない」で34.7%でした。正解は「石炭」で、正解率は30代以下 24.9%、40代以上30.5%で40代以上が高くなっています。

「ふだん着でCO₂をへらそう」活動の認知率は全体で52.7%、参加率は10.2%でした。どちらも40代以上が高くなっています。最後に「省エネセミナー」の参加意向を尋ねましたが、全体68.1%、30代以下65.6%、40代以上69.8%でした。

調査結果をみると、保護者の皆さんが暮らしの中で省エネに積極的に取り組んでいる様子がうかがえます。また年代別では、30代以下に比べて40代以上の保護者の方々の省エネ意識がやや高いことがわかりました。

■7月～9月の活動報告

7月24日(日)、8月21日(日) 「夏の夜空の天体観望会」開催

都立日野高校地学部・どんぐりクラブ共催。会場は日野高校の教室と屋上。毎年実施している人気の天体観望会で今年は2回開催しました。それぞれ105人、80人の参加者があり、日野高校の地学部員による解説を聞きながら親子で夏の星座や土星、火星を観察しました。8月21日の会には府中郷土の森博物館の移動天文観望車も来て口径35cmの望遠鏡での観察もしました。

8月3日(水)～10日(水) 「日野の魚たち」写真展開催

市役所1階市民ホールで日野で見られる魚たちの写真展を開催しました。水生生物専門家の鶴田大三郎氏に協力いただき市内の川や水路に生息する魚たちを「よく見られる魚たち」「近年少なくなった魚たち」「ドジョウやナマズ、ハゼの仲間」「エビやカニの仲間」「外来種」などの分類で36枚の写真で紹介しました。



9月3日(土) 日野用水開削450周年記念事業「日野の用水を歩く」開催

9月3日(土) 10:00～15:30開催。日野用水開削450周年事業推進委員会主催。午前のは多摩平の森ふれあい館で「浅川の水環境を考える」(講師:日野市環境情報センター 小倉紀雄)「日野市内の用水の現状と課題」(講師:日野市環境共生部部長 小笠俊樹)の講演が行われました。午後のはふれあい館からスタートし、黒川水路や豊田用水、その周辺の湧水ポイントや史跡などを巡るまち歩きをしました。開削450周年にあたる来年度は秋に記念のシンポジウムと特別展を開催する予定です。

9月17日(土) みんなの環境セミナー「虫や風を利用する虫たち」開催

9月17日(土) 9:30～15:00 雑木林ボランティア講座の公開講座として開催。講師はフラワーエコロジスト田中肇氏。午前中は見晴らし台地区センターを会場に、植物が繁殖するための手段である虫や風による受粉について花がどのように形や色を工夫しているかをスライドなどで学習しながら、花の形態や各部分の名称を学びました。午後は南平丘陵公園で植物観察会。毎年開催の人気講座で参加者は41人、市外の方も大勢参加しました。

10月8日(土) みんなの環境セミナー「向島用水と水車を見る・知る・学ぶ」開催

10月8日(土) 10:00～13:00 日野の水車活用プロジェクト主催。雨の降る中、参加者は8人と少なかったですが、取水口から最後まで向島用水路に沿ってのまち歩きと向島用水親水路にある水車小屋を見学、用水路の役割や水車の仕組みなどを紙芝居や映像で学びました。水車小屋では発電実験や石臼を使った精米なども体験しました。



雨の中、向島用水にて

* 10月～12月の行事・イベントのお知らせ *

10月22日(土) みんなの環境セミナー「里山づくり」

雑木林ボランティア講座の公開講座。明治大学農学部倉本宣教授を講師に迎え、明治大学黒川農場や講師が昨年訪れたロンドンでの事例を通して生物多様性の生態系管理が実践されている里山管理についての講演会と中央公園や神明上緑地などでの植物観察会を行います。10月1日発行の広報「ひの」でお知らせしました。参加者募集中です。

11月20日(日) みんなの環境セミナー「雑木林へGO! 親子で雑木林を体験しよう！」

日野市環境基本計画推進会議みどりグループ主催。黒川清流公園で下草刈りやどんぐり拾い、カブトムシの幼虫探しなど親子で体験し、雑木林の大切さを学びます。11月1日発行の広報「ひの」でお知らせします。

12月7日(水)～15日(木) (仮)「日野の小動物たち」写真展

市役所1階市民ホールで開催。日本自然保護協会自然観察指導員の井上録郎氏の協力により、タヌキやヘビ、カエルなど日野市内に生息している小さな動物たちの生態を写真で紹介します。写真展としては初の開催です。ご期待ください。

11月12日(土)、13日(日) 産業まつり かわせみ館ブース

中央大学経済学部との連携事業で8月に行なった「黒川清流公園の経済価値」調査を発表する予定です。

「ひの緑のトラスト」募金活動にご協力を

百草地区には貴重な雑木林が市民と行政の協働により残されており、市民による保全活動が活発に行われています。この貴重な里山の保全を進めるため「ひの緑のトラスト」が設立され、募金活動を行っています。

環境情報センターでは「ひの緑のトラスト」の事務局として、募金活動などを担当しています。市内の緑地保全のための募金にご協力をお願いします。

詳細は環境情報センターまでお問い合わせください。



発行 日野市環境情報センター かわせみ館
〒191-0011 東京都日野市日野本町1-6-3 4
Tel/fax: 042-581-1164
Eメール: kawasemikan@jcom.zaq.ne.jp